

能登へいつ戻れるか

能登半島地震を受け、被災地の高齢者施設から石川県外に広域避難した高齢者の先行きが見えない。県境をまたいだ避難は災害関連死の防止に役割を果たしたが、故郷を離れ、縁もゆかりもない土地に移った高齢者は今後どこで暮らしていくのか。送り出した施設、受け入れた施設で模索が続いている。

(平井良信)

入所の高齢者 愛知などに避難



施設の入所者や職員(中央左)とふれあう石川県珠洲市から避難してきた丸山文字さん(同右)と坂下靖司さん=愛知県春日井市のメディコ春日井で

2月上旬、愛知県春日井市に移ってきた丸山文字さん(89)と坂下靖司さん(70)の介護老人保健施設(老健)「メディコ春日井」が、他の利用者たちと一緒に石川県珠洲市の老健施設から手遊びや体操を楽しんで

命を守るため、でも…関係者葛藤

い。やっぱ戻りたいね」

ともに日常生活に介助が必要な要介護4の2人は、1月11日に自衛隊のヘリで愛知県名古屋空港に移送された。丸山さんは尿路感染症による発熱があり、坂下さんは肝機能が悪く、健康状態は良くなかった。春日井市民病院でしばらく入院治療を受けた後、メディコ春日井に移った。

「荷物もなく、着の身着のまま避難された。見ず知らずの所に来て、最初は不安そうだった」。看護師長の鈴木恵子さん(67)は振り返る。

着替えは体に合う服を職員が家から持ち寄った。生活歴が分からない難しさもあったが、隣に寄り添って手を握るなどケアに努めた。今では自分で食事が取れるまで体調も回復。丸山さんの孫の優作さん(31)は石川県穴水町に「受け入れに感謝している」と話す。

ただ、いつ能登半島に戻れるかは分からない。健康だった頃、珠洲の海のそばで農業を営んでいた坂下さんが、遠い目でつぶやいた。「珠洲の海が懐かしい」。

葛藤は体には合っている職員が家から持ち寄った。生活歴が分からない難しさもあったが、隣に寄り添って手を握るなどケアに努めた。今では自分で食事が取れるまで体調も回復。丸山さんの孫の優作さん(31)は石川県穴水町に「受け入れに感謝している」と話す。

ただ、いつ能登半島に戻れるかは分からない。健康だった頃、珠洲の海のそばで農業を営んでいた坂下さんが、遠い目でつぶやいた。「珠洲の海が懐かしい」。

要介護300人が県外 施設再建急務

石川県によると、能登半島の高齢者施設から広域搬送された要介護者は約千人に上り、うち3割は県外に避難した。過去の災害でも例がない規模で、現場が逼迫していた状況が浮かび上がる。

名古屋大病院救急科長の山本尚範医師(45)は災害派遣医療チーム(DMAT)の一員として

能登半島の高齢者施設からの移送状況



「十分な介護ができず、災害関連死のリスクが高い」と判断。石川県のDMAT本部に報告し、11日に受け入れ能力の高い愛知県にヘリで搬送した。

「あの上までは相当の人数が災害関連死につながっていた。一刻を争う状況だった」と山本さん。移送者は岐阜や福井、富山も含め、約千人に上った。車

ど多くの要介護者を広域搬送したのは今回が初めて」と言う。

一方、慣れ親しんだ土地や家族のもとを離れた要介護者を今後、どのように帰していくかが課題になる。入所者全員が避難した施設では仕事なくなり、職員の生活も維持できない。山本さんは「医療や福祉を再建しなければ地域は立ち行かなくな

搬送前に長時間放置か

4歳次女殺害 保育施設6カ所転々

東京都台東区の自宅で保育園児の次女(当時4)が不凍液と抗精神病薬を摂取させて殺害したとして両親が逮捕された事件で、次女が搬送直前まで長時間リビングの床にあおむけで倒

れていた疑いがあることが、捜査関係者への取材で分かった。背中に皮膚が変色する「死斑」が確認された。その状況から、警視庁浅草署捜査本部は、両親が寝かせたまま放置したとみて

捜査関係者によると、次女の細谷美輝ちゃんは生まれた2019年から亡くなる23年までに計6カ所の保育施設を転々とし、施設側が警視庁に美輝ちゃんが不衛生だったと説明していたことも判明。捜査本部は日常的なネグレクト(育児

放棄)があったとみている。施設を転々とする中で虐待などの発覚を免れようとした可能性がある。

父親の健一(容疑者43)の姉が18年4月に41歳で死亡した時期にも、両親のいづれかが不凍液を購入した履歴が確認されていたことも分かった。

遺体から不凍液に含まれる有害物質「エチレングリコール」が検出されており、捜査本部は死亡の経緯を調べる。美輝ちゃんが死亡する前の約1年間も複数回、不凍液と抗精神病薬「オランザピン」を購入し

ねえひよちゃん



受刑者「さん」付けに 法務省

法務省は15日、名古屋刑務所で刑務官が受刑者に暴行・暴言を繰り返した問題の再発防止策に関し、取り組み状況や今後の見通しを公表した。

不祥事を招く一因とされた受刑者の呼び捨てを4月から全面的に廃止し、名字に「さん」を付けた呼称とする。刑務官の行動を記録することもに、通信機能を使った遠隔サポートが可能になる装着式カメラを8施設に配備する。

名古屋刑務所では、受刑者を「懲役」と呼ぶなど不適切な呼称が横行。法務省の第三者委員会は昨年6月、「人権意識が希薄」と問題視し、各施設で一般的な呼び捨ての再考を促していた。

刑務官は「先生」→「職員さん」

名古屋刑務所では、受刑者を「先生」と呼ぶなど不適切な呼称が横行。法務省の第三者委員会は昨年6月、「人権意識が希薄」と問題視し、各施設で一般的な呼び捨ての再考を促していた。

これをを受け法務省は昨年12